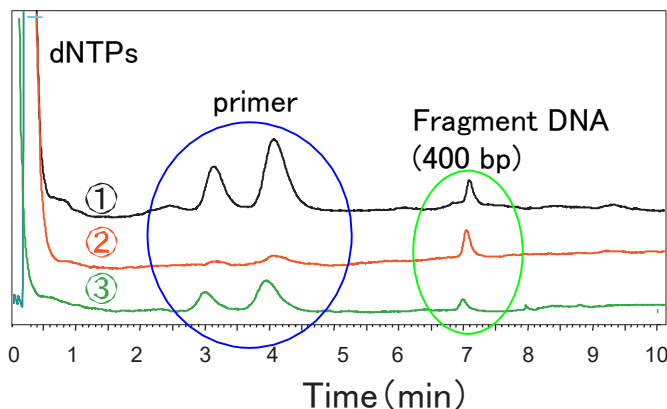


特長1: 高純度DNAが回収できる

HPLC(クロマトグラム)によるDNA精製比較

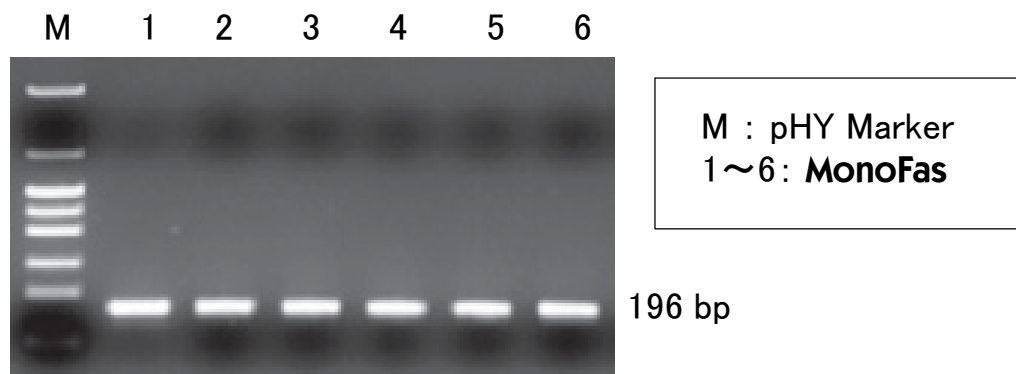


① PCR産物精製前 ② MonoFas精製後 ③ A社製品精製後

イオン交換クロマトグラフィーによって、プライマーの除去効率やフラグメントDNA残存率を比較した結果、他社製品に比べて、より良い純度が得られました。

特長2: 高い再現性が得られます

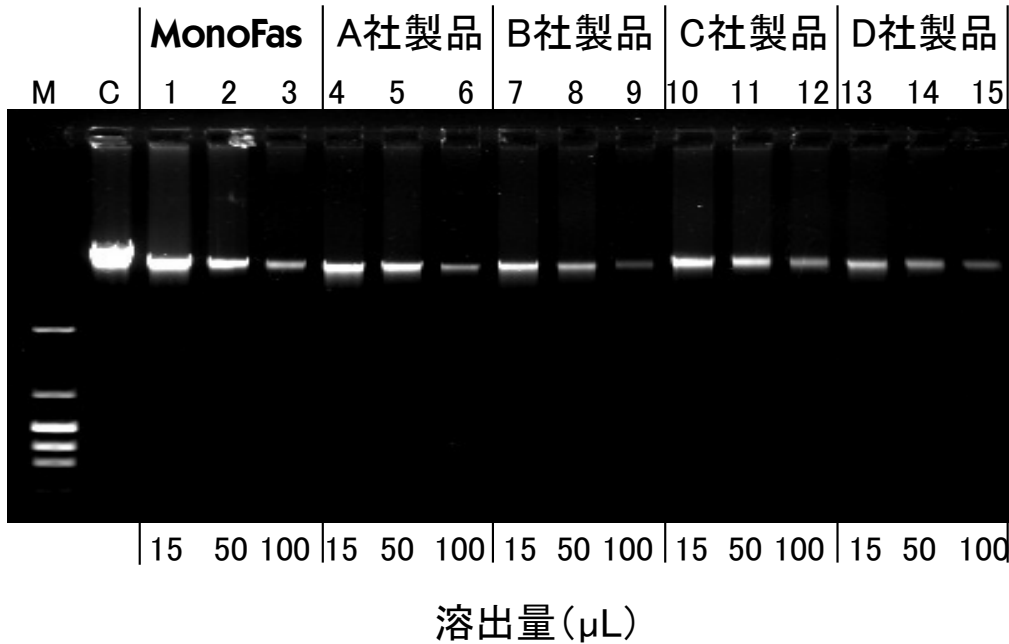
196 bp のフラグメントDNA精製による再現性



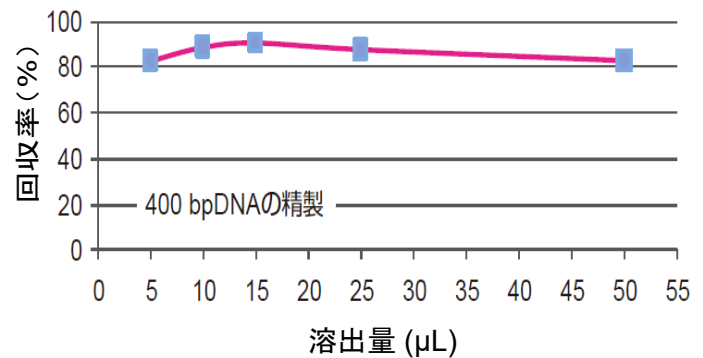
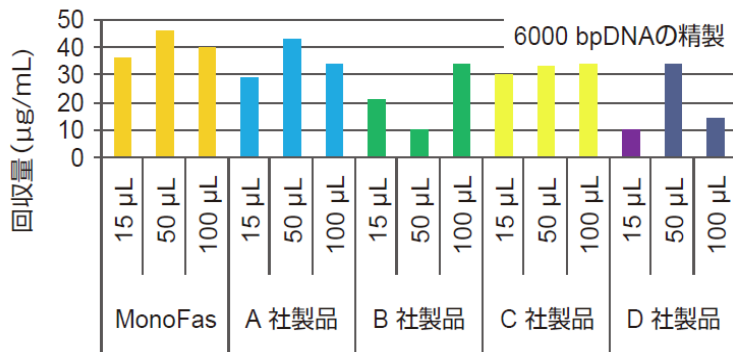
制御されたメソ孔のシリカモノリスを高い品質管理のもとで製造しているため、再現性良くDNAを回収できます。

特長3: 少量(10 μL)溶出でも高回収率

溶出量の違いによる電気泳動、および分光光度計による回収率の比較

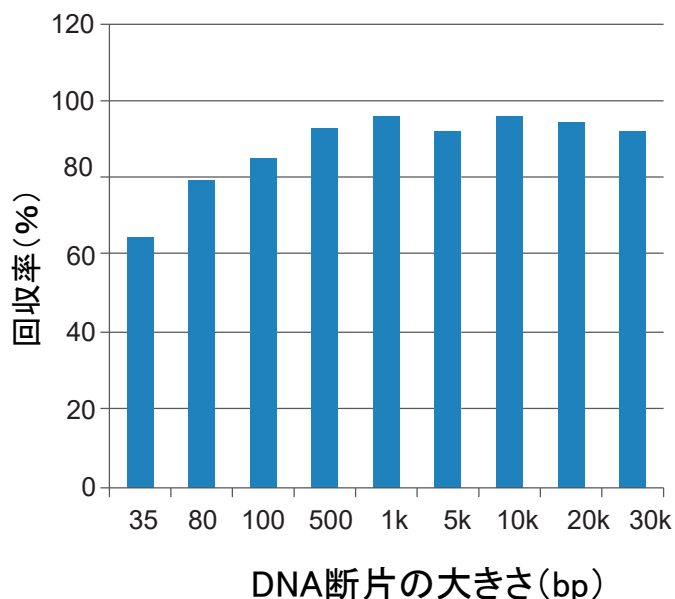
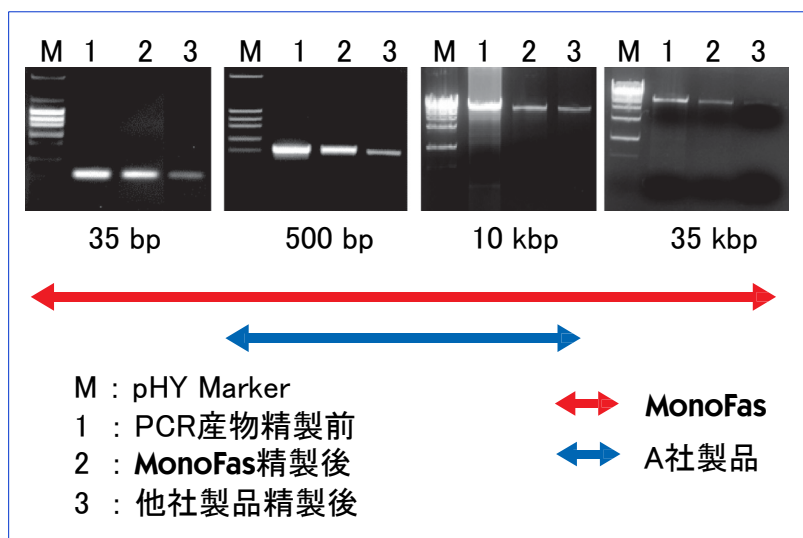


M: DNA Marker C: Control (6000 bp)



フィルターを用いないため液溜まりがなく、少量のバッファーでの溶出が可能です。スピンカラム中のモノリスに溶液が膨潤するのに必要な溶液量は10 μLなので、最小10 μL溶出が可能です。

特長4: 広範囲DNA分子サイズが精製可能



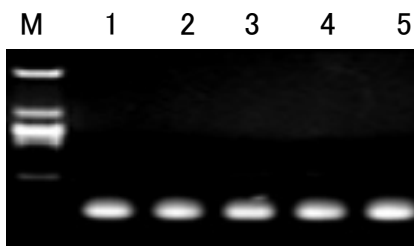
核酸の保持能力が高いため、35 bpの短いDNAから精製できます。また、大きなスルーポアがDNAの損傷を防ぎ、35 kbpの長いDNAまで精製することができます。PCR産物に残存するプライマーなどの一本鎖DNAは、80 mer以下で除去されます。

特長5: 卓上遠心機で操作ができます！

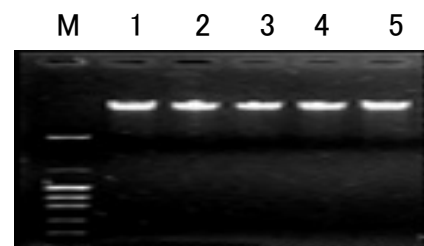


使用可能な簡易型卓上遠心機
 定常回転数: 6,200 rpm 以上 (±20%) (固定設定)
 一定遠心加速度: 2,000 × g 以上 (19,600 m/s²)

● フラグメントDNA : 35 bp



● フラグメントDNA : 35 kbp



フラグメントサイズが35 bpでも35 kbpでも遠心分離機で精製可能です。